



作文2部

のう りん すい さん だい じん しょう
農林水産大臣賞

祖父^{そふ}とともに作る^{つく}

栃^{とち}木^ぎ県^{けん} 大^{おお}田^た原^{はら}市^し立^{りつ}川^{かわ}西^{にし}小^{しょう}学^{がく}校^{こう}六^{ろく}年^{ねん}

橋^{はし}本^{もと} 伶^れ於^お

僕の母の実家では、お米や野菜をたくさん育てている。農業を専門で行っている専業農家だ。僕は小さな頃から毎年、祖父が運転するトラクターやコンバイン、田植機などに乗せてもらっていた。そのせいか僕は、農業機械が大好きになっていった。今では、いろいろなメーカーの機械も少し見ただけで見分けることができるようになっていた。

僕は、毎年お米作りの手伝いをしている。早く祖父と同じようにいろいろなことができるようになりたいと毎年思っていた。いつもいつも祖父の後ろにぴったりとくっつき、どんなことをしているのか、どうすると上手にできるようになるのかよく見ている。祖父もそんな僕に気が付き、いつも優しく教えてくれた。僕が初めて自分の田んぼを作ることができたのは三年生の頃だった。

「自分の田んぼを作りたい。」

僕は祖父にお願いした。祖父は、僕の家の前に一平方メートルの小さな田んぼを作ってくれた。鍬で土を耕し、バケツに水をくんで何度も運んだ。水と土を混ぜ合わせるように足で踏み、

ようやく田んぼができた。最後に祖父と一緒に苗を植えた。お米を収穫するまでに水の管理をしたり、害虫から苗を守ったりといういろいろな仕事があったが、なんとか収穫することができた。とてもうれしかったし、すごくおいしかったことをよく覚えている。今年は、三十六平方メートルの田んぼで米作りに挑戦している。

僕は祖父の手伝いを通して農業について多くのことを知ることができた。そして僕の夢は農家になることだ。大人になるまでに農業についての知識を増やしていきたいと考えているが、それ以上に農業機械についてもつとよく知りたいと考えている。そうすることで機械が故障したときにもすぐに直すことができると考えたからだ。そして、祖父が機械のことで困っているとときにはすぐに助けることができると思う。そして、祖父と一緒に農業をしていきたいと思っている。たくさんのお米を作ってたくさんの人に僕達が作ったお米を食べてもらいたい。

僕の夢に向かって少しずつ進んでいきたいと考えているが、不安もある。それは、僕が大人になる頃、日本はどうなっているのかということだ。毎年のように異常気象に見舞われ、お米が思ったように育たないのではないか。また、食生活の多様化や人口減少によりお米の需要が減ってしまうのではないか。農家を取り巻く環境は日々変化しているように感じる。

僕は僕の夢を実現させるために、これからいろいろなことを学んでいかなければいけないと思う。祖父のように立派な農家になるために、祖父と一緒においしいお米を作るためにこれからも頑張っていきたい。